愛知県知多半島の犬におけるエキノコックス感染事例について

資料８

発生状況

○エキノコックス（多包条虫）は、北海道においてのみ野生動物（キツネ）での常在が確認されていた。愛知県では、平成26年に阿久比（あぐい）町で捕獲された野犬１頭のエキノコックス症の感染が確認されていた。

○これを踏まえ、愛知県衛生研究所では、愛知県知多半島地域で捕獲された野犬の糞便を用い、エキノコックスの虫卵の有無を顕微鏡検査により確認を実施。また、平成28年度からは、厚生労働科学研究による愛知県衛生研究所と国立感染症研究所の共同研究事業において、糞便の遺伝子検査を実施。

○平成29年度に捕獲された野犬３頭の糞便の遺伝子検査により、エキノコックス症の感染が確認された。

	捕獲場所	犬種、性別等	検体採取年月	備考
1	阿久比町	雑種、メス、幼犬	平成29年４月	駆虫薬投与後、譲渡
2	南知多町	雑種、オス、成犬（推定２歳）	平成29年11月	殺処分
3	知多市	雑種、メス、成犬（推定２歳）	平成30年２月	駆虫薬投与後、譲渡

対応

○平成30年3月28日に、国立感染症研究所より健康危険情報の提供があり、
厚生労働省は、同日付で愛知県に対し、
・動物の調査を強化し感染状況を把握すること
・飼い犬の感染が不安な住民に対し動物病院の受診を勧奨すること
・住民からの健康相談に対し、受診を勧奨し、必要に応じて、検査体制を整備すること
等の指示を行うとともに、全自治体、医療関係者及び関係団体に情報提供を行った。

○今後、厚生労働科学研究において、全国の野犬が多い地域を調査し、
エキノコックスが常在化するリスクが高い地域を評価し、当該地域におけるエキノコックスの調査を実施する予定。

エキノコックス症について

基本情報

病原体　エキノコックスという寄生虫による感染症。犬やキツネでは腸に成虫が寄生するため症状は現れないが、便に寄生虫の卵が見つかる。人やネズミでは肝臓に幼虫が寄生し、肝臓の機能異常が現れる。

感染経路　キツネや犬等の排泄物に含まれるエキノコックスの卵に汚染された水、食物等を口から摂取した場合に感染する。人から人へは感染しない。

症状　肝臓の腫大、腹痛等の初期症状が現れるまでに、成人では通常10年以上を要する。発症後に放置すると、約半年で腹水が溜まり、死に至る場合もある。

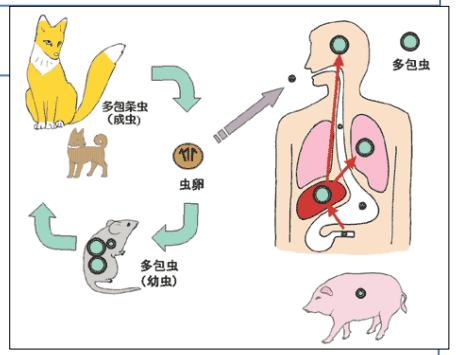
診断・治療・予防

診断　肝臓組織からのエキノコックスの検出、血清からの抗体の検出。

治療　外科的切除が唯一の根治的治療法であり、早期発見、早期治療が重要。犬への治療は駆虫薬が有効。

予防　感染源となるキツネや犬等に接触しない。沢や川の生水は、煮沸してから飲むようにする。

国内の発生状況・対応状況



- 北海道では、野生動物（キツネ）において常在。
- 感染症法上、四類感染症に分類、犬のエキノコックス症は獣医師の届出対象となっている。
- 北海道以外でも、愛知県や埼玉県で犬において散発的な発生が確認されている。
- エキノコックスが常在している北海道では、住民のエキノッコクス症検診や媒介動物であるキツネの感染状況調査等を実施。
- 厚労省では、動物由来感染症予防体制整備事業により、北海道に対し、エキノコックスの診断・治療等の医療関係者向け研修費用等の補助を行っている。
- AMEDによる研究事業で、北海道において感染源となる野生動物への対策の検討、非流行地における感染犬発見後の対応ガイドラインの作成、を行っている。

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年4月1日まで
患者報告数	28	25	27	26	1
感染犬報告数	1	0	1	0	3